

39 WAIS-Ⅲの試行実施と今後の課題

医療相談開発部 心理 野口玲子・四ノ宮美恵子・色井香織・土屋和子
富岡純子・石原奈保子・小早川睦貴

1. はじめに

ウェクスラー式知能検査は、1939年にアメリカの心理学者 D.Wechsler によって開発された成人用の個別式知能検査であり、現在、世界的に最も使用されている知能検査の1つである。

1990年に日本版 WAIS-R が刊行されたが、昨今の認知心理学・神経心理学の成果を基に、時代に即した形に大幅に改訂され、本年6月に WAIS-Ⅲとして新たに刊行された。当院心理でも本年11月より WAIS-Ⅲの試行実施を開始した。本発表では WAIS-Ⅲの特性を踏まえた上で、当院での本格的な導入にあたって、今後の課題について検討する。

2. WAIS-Ⅲの概要

WAIS-Ⅲは WAIS-R と以下の点で大きく異なる。

- ・下位検査の追加
- ・高齢化社会に合わせ、適用年齢の拡張
- ・4つの群指数による分析の追加
- ・IQの換算方法の変更

3. WAIS-Ⅲ試行実施結果

対象：2006年10月以降に入院した、脳血管障害・外傷性脳損傷・その他の脳疾患等がある方で、検査耐性が比較的良好であると判断した患者。

方法：心理部門で WAIS-Ⅲの事前研修を行った上で実施。問題点を整理するにあたり、検査終了後に担当者全員で振り返りを行い分析。

結果：

【事例1】年齢69歳、女性。脳梗塞。軽度の左麻痺と高次脳機能障害。

【事例2】年齢71歳、男性。外傷性脳損傷。失調と高次脳機能障害。

4. まとめ

WAIS-Rと比較して、下位検査や精査問題が増えたため、被検者への負荷が高まることが懸念されたが、検査回数は増えたものの負荷については大きな変化は認められなかった。むしろ、言語性・動作性IQのほかに、群指数の算出により、認知特性がより詳細に把握しやすいなどの利点を得られた。また、群指数が指標化されたことで、被検者にとっても具体的でわかりやすい結果となっており、認識を深めるための素材としては非常に有益であった。ただし、改訂版では簡易実施法が標準化されていないため、検査耐性の乏しい被検者に対し、選択的に下位検査を実施した場合、分析が困難であることから、検査バッテリーに関しての検討が必要である。